

チャイナウィルスという言葉は1998年私がはじめて使った。

当時大阪には中国の人達が大勢出稼ぎに来ていた。大半が深夜まで働く飲食関係の仕事で、中には2つの店に勤め18時間も働き、月収50万円以上稼いでいた。大半が6帖1間の安アパートに数人で住んでいた。

大阪南には闇の為替屋が居て、夜間でも、日本円を支払えば、翌日には中国の家族が、元で受け取れる仕組みがあった。好奇心で手数料を聞いたら5%だという。随分良心的だと思った。その頃、上海での月収は1~2万円だったから、頑張り甲斐があったのだろう。

今では大阪に永住し、立派な店を持っている人、中堅企業の社長になった人もいる。皆さん真面目に働き成功したのだ。

その頃から、夜遅く「信号を無視して乱暴に走る自転車」が多くなりだした。この信号無視は中国の出稼ぎ組から始まった。私は、年に3~4回は中国に行っていたので解るのだが、当時中国では、信号を守る人などいなかった。だから、大阪に来て中国での習慣通り「信号無視」だったのだ。

ところが、この信号無視を「日本の馬鹿若者たち」が真似る様になって、大阪は日本一信号を守らない都市になったのだ。私はこの事を「チャイナウィルス」と呼んだ。ところが今では、中国は交通マナーが素晴らしく良い。一方、大阪は日本一悪い都市だ。中国人は信号を守り、日本の若者たちが守らないのだ。

ウィルス発症地中国は「マナー破り病原菌は壊滅させた」伝染先の大阪では「20年経ても蔓延が続いている」 果たして、どちらの民族が優れているのでしょうか？ 日本で無いことは確かです。中国の長所、日本の短所を如実に表している気がします。

私達事業家は、互いの国の長所、短所を把握して、双方に利益を齎す関係が肝要です。

香港、ウイグル、南沙諸島、尖閣、軍備拡張、非民主的、報道規制、中国は焦り過ぎです。この様な独善的な政策を続ければ、何れ国は滅びます。中国の覇権主義を止めない限り、世界は乱れ不幸に向かいます。

我国は、「力には力で対応する」基本姿勢を持たねばなりません。防衛力を、どのように財政が苦しくても増強せねばなりません。中国に「強く出れば、相手はそれ以上に強くなる」事を見せつけねばなりません。攻撃を受ければ、敵基地攻撃は当然で、10倍返しです。

日本の防衛予算は倍増すべきでしょう。財政面でも中国と我慢比べです。

「強く出れば、日本は益々強くなる！」この事を、中国に理解させねばなりません。中国に覇権主義、尊大な態度を改めさせ、普通の穏やかな国にする事は、私達隣人の務めであり、中国に対する最大の親切です。

中国は大国らしい威厳のある態度に還るべきだ。

この事を POLY-GLU は切望する。